

第3回徳島市民病院経営健全化推進会議議事録

日時 平成30年2月21日（木）午後3時～
 場所 徳島市民病院医局カンファレンスルーム
 出席者 18人（委員11人、事務局ほか）
 傍聴人 0人

- 1 開会
- 2 議事

(1) パブリックコメント手続の結果について	
事務局	「パブリックコメント手続の結果について」を説明
各委員	意見なし
(2) 徳島県地域医療構想調整会議における経営強化プラン改定（素案）の説明について	
三宅委員	「徳島県地域医療構想調整会議における経営強化プラン改定（素案）の説明について」を説明
各委員	意見なし
(3) 平成28年度徳島市民病院経営強化プランの実施状況について	
三宅委員	「① 地域における役割と機能を果たすために ア 地域医療連携機能等の充実」を説明
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関等への訪問を通して、「市民病院も病院訪問をするようになったのか」という声を聞くこともあり、今まで実施できていなかったことを申し訳ないと感じている。連携病院の院長先生方と顔を合わせて話をすると、忌憚のない意見をいただけるので非常に有り難い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月に患者支援センター運営委員会を設置し、患者目線での運営の充実強化を図ったとあるが、これまでも情報の共有化や改善点の協議に取り組んでいたと思う。敢えて委員会を設置した意図は何か。

三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> 患者支援センターについては、新たに広報管理室を加えたことを機に、センター内の各部門を統括する役割を担う運営委員会を設置することとした。また、設置場所も正面玄関右側のわかりやすい所に移設した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 患者支援センターというのは、紹介状を持たない初診患者に対して、症状に沿った診療科を案内してくれる部署ということか。
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> そのような場合には、受付窓口で対応させていただく。患者支援センターでは、主に医療費・福祉制度・介護サービス等の医療福祉に係る総合的な相談対応を行っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> このような患者サービスが充実しているのは有り難いと思う。ただし、総合病院の場合、敷居が高く入りにくいと感じたり、診察を受けようとすると断られたという声を聞いたりしたので、改善してほしい。
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> 症状によってはかかりつけ医にお願いすることもある。その際に、説明が不十分だという声もあるので、指導していきたい。患者支援センターにおいても、かかりつけ医のご案内をしているところである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関では機能分化が進められており、急性期病院については、かかりつけ医の紹介状による診察が原則となっている。紹介状が無ければ患者さんも余計な初診料を負担しなければならない。このような仕組みを市民の方に知ってもらうことが重要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 患者側も理解を広めて積極的に協力していくことで、病院職員の方々が治療に専念できる環境づくりに繋がると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 病院訪問は、どのようなメンバーで訪問しているのか。
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> 当方は院長と患者支援センターの職員で訪問しており、先方は院長や事務長である。意見交換を通して、お叱りを受けることもあれば、一方でお褒めいただくこともある。今後も積極的にやっていきたい。
三宅委員	<p>「イ 急性期医療等の充実」を説明</p>
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療への取組は重要課題としており、できる限り救急搬送を断らないように指導している。ただし、呼吸器内科専門医の減少により

	<p>冬期に増加する肺炎患者の受入れが困難となっている。連携病院の先生方には事情を説明しているが、平成30年4月には元の体制に戻る見込みである。また、これまで市民病院では脊椎・関節手術に注力してきたが、大学医局との連携により関節手術に特化していくこととした。そこで、高齢化で急増する大腿骨頸部骨折の患者さんについて、以前は手術枠の関係でお断りすることもあったが、今後は対応可能となる見込みである。</p>
三宅委員	「ウ 高度な専門医療等の充実」を説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・がん診療の中で就労支援とあるが、どういう所に配慮してハローワークと連携しているのか。また、就労に繋がったケースはあるのか。
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークとの連携実績はまだ少なく、相談5件・紹介1件である。まずは相談件数から増やしていきたいと考えている。がんのために必ずしも仕事を辞める必要はなく、がん患者さんも働きたいという強い気持ちを持っている。中には定年まで勤め上げた方もいる。患者本人の希望を踏まえつつ、仕事を続けられるようながん治療を提供していきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の就労問題は雇用側にもあると考えている。雇用側の理解があれば病院側としても対応しやすい。治療と仕事の両立支援は今後も浸透していくと思うが、今のところ病院側が先行しているという印象。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月に改定された「徳島県がん対策推進計画」においても、がん患者の就労支援が明記されている。今後も先行事業として注力してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数（件／月平均）について、平成30年1月現在で614.3件（前年度対比+81.2件）と大幅に増加しているが、これは外来化学療法の増加が要因なのか。
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りである。以前は入院・外来が半々程度であったが、現在は外来化学療法が上回っているという状況。外来化学療法の増加により、外来化学療法室のベッドが確保しにくくなっていることから、患者さんが希望する場合には2日程度入院をさせていただいている。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎手術件数について、平成 30 年 1 月現在で 142 件（前年度対比▲110 件）と大幅に減少しているが、この要因は何か。
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで脊椎・人工関節センターに脊椎専門医と関節専門医を設置し、脊椎・関節手術に注力していたが、先述のとおり関節に特化するため、脊椎専門医が大学病院へ戻ったことが要因である。平成 30 年 4 月以降は、関節治療センターへと改称し、新たに赴任するリウマチ専門医や膠原病専門医とも協力して取り組んでいきたいと考えている。
三宅委員	<p>「エ 市民の健康と安全のために」を説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康づくりへの支援について、どのように市民向けに周知しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・広報とくしまやホームページにより周知している。併せて、病院独自にパンフレットを作成し、関係機関へ配布している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大学病院のイベント等は新聞で拝見するが、市民病院のイベントはあまり見かけない。このような活動をしているのであれば、掲載してはどうか。
三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞掲載の場合には、費用負担も考慮しつつ検討したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島新聞には「情報とくしま」という各種イベントの告知を無料で掲載できるコーナーがあるので、可能であれば活用しても良いのではと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民公開講座においては、どの程度の参加者が集まるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度は、第 1 回目（演題「加齢と病気」）は 106 人、第 2 回目（演題「がん治療」）は 50 人、第 3 回目（演題「整形疾患と糖尿病」）は 206 人が参加した。開催場所は全 3 回ふれあい健康館である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市医師会主催の市民公開講座では、200 人程度ご参加いただいている。新聞で市民公開講座を告知した時には、相当程度の費用がかかった。影響力はあるが費用負担も大きいと思われる。

	<p>また、病院窓口にもパンフレットを置いているが、演題自体も市民の方々が興味を持てるように考慮すべきだと思う。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターにも配布してはどうか。毎日 50 人程度、多い日には 100 人程度の高齢者が来訪されるので、大きな効果が期待できる。大学病院のパンフレットはよく見かけるので、市民病院でも検討してみしてほしい。
<p>三宅委員</p>	<p>「② 次代を担う医療人を育てるために」を説明</p>
<p>三宅委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要課題は医師の確保である。政府では働き方改革を掲げているが、現時点の医師数でこの改革に対応できるのか危惧している。平成 30 年 4 月以降、消化器内科専門医・呼吸器内科専門医・緩和ケア専門医が 1 名着任する。何とかして医師を増やしたいが、ある診療科で増えたとしても、別の診療科で減ってしまうというのが現状である。
<p>三宅委員</p>	<p>「③ 安心・安全な医療のために」を説明</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策への取組について、感染防止対策加算 2 を算定する医療機関との連携状況はどのようになっているか。
<p>三宅委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度は 3 病院と連携している。幾つかの病院へ連携を依頼した際には、既に中央病院や大学病院と連携しているからという理由で断られることが多かった。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制度発足当初、感染防止対策加算の連携先を県が指定したため、連携先のほとんどが中央病院か大学病院となっている。病院自身で選択している訳ではないので、再編するか連携先を増やすか県に打診しても良いのではないかと。また、ICT 技術を活用することで、連携もしやすくなると思われる。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者満足度にかかるアンケートについて、結果のフィードバック及び改善の仕組みはあるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果については、経営戦略会議で情報共有するとともに、改善に向けた協議を行っている。

<p>三宅委員</p> <p>井原委員</p> <p>委員</p> <p>三宅委員</p> <p>委員</p> <p>三宅委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院食の評価があまり良くなかったため、給食業者を変更したところ、すでに改善されたという声を聞いている。また、委員からご指摘のあった職員満足度については、平成 29 年度に実施している。結果はまだ出ていないが、「この病院で働くことを友人に勧めたいか」という項目を設定したので注視したい。 「④ 健全な経営のために」を説明 ・後発医薬品の採用比率について、平成 30 年度診療報酬改定を踏まえ、目標値を増やしていくことはないのか。 ・診療報酬改定を踏まえ、目標値も変更しなければならないものが発生すれば柔軟に対応する方針である。 ・中央病院では院外処方は全て一般名処方となるように、オーダーリングシステムを変更したとのこと。市民病院では一般名処方を導入する見通しはあるのか。 ・一般名処方については、薬剤部でも前向きに進めたいという意向がある。今後も協議を重ねていきたいと考えている。
<p>(4) その他について</p>	
<p>委員</p> <p>三宅委員</p> <p>委員</p> <p>三宅委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島大学主導で「阿波あいネット」の準備が進められているが、市民病院含め県下の医療機関の間ではどの程度広がると予測されるか。 ・「阿波あいネット」については、個人情報が大きな課題となっている。市民病院の場合、徳島市個人情報保護審査会の承認が必要となるが、受け手側の情報管理体制が明確でないので、現在継続審議中である。中央病院においても同様と聞いている。 ・病院間で電子カルテシステムが異なっていた場合、システムの互換性を担保する必要があるのではないか。 ・システムが異なっても互換性の面で問題は生じないと聞いている。ただし、画像データを通信するとなれば、懸案事項となる可能性もある。

3 閉会

以 上